

なにわ名物って、モノ・コトいっぱいあるけどやっぱヒトとちゃう？



なにわ名物 NEWS

2019年1月発行

| な | に | わ | 名 | 物 | 開 | 発 | 研 | 究 | 会 |

2019-No.1

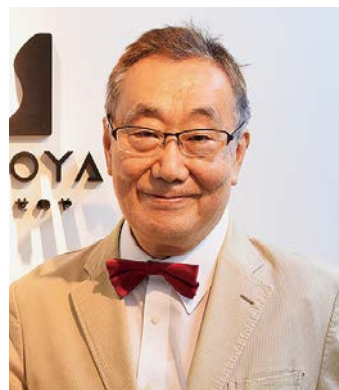
発行：なにわ名物開発研究会

な 新年御挨拶

なにわ名物開発研究会、23回目の新年を迎えました。

さまざまな仕事、キャリア、年代の人々がつながり、既存の業界や組織にとらわれない「異業種・異分野のネットワーク」は設立当時は新鮮なものとして注目を集めていました。現在、多様で多彩な連携による課題解決はあたりまえの時代となってきました。その先駆者であったこの会が、チャレンジ精神やイノベーションにむけての行動を忘れてはいけません。昨今のキーワード「SDGs」（継続可能な開発目標）、言葉こそ違えど私たちが大切な理念に掲げてきたものです。今年は「なにわ名物開発研究会」の設立の思い、行動目標を確認し、未来志向の活動に取り組んでいきたいと思えます。23年前、まさかもう一度万国博覧会が大阪で開催されるとは考えてもいませんでした。2025年へ向けてそのムーブメントの中心に私たちがいる・・・研究会はあらたな若きリーダーたちの登場が期待されています。大阪府公民戦略連携、各地域活動の連携、観光戦略、上方文化・・・継続とつながりの視点から「名物開発」の原点回帰をめざそう！

会長 野杵育郎



な 9月度 月例会 「四天王寺 金剛組の宮大工の匠の技に学ぶ」

9月29日、2018年の「なにわ大賞」で『なにわの匠 特別賞』を受賞されました「金剛組 匠会」の木内棟梁のご案内で四天王寺を案内していただきました。木造建築における技や、戦後、火災など災害に強いコンクリート造りにするなかで、木造の風合いをコンクリートに出すためのご苦労などをご説明いただきました。また金剛組の歴史や大工道具、宮大工の技などに関する説明もいただきました。また金剛組は、江戸時代まで四天王寺のお抱え宮大工でしたが、明治の廃仏毀釈により禄を失われ、企業として努力された話や、宮大工を育成するうえでの苦労なども語っていただき、金剛組が1400年続いてきた片鱗に触れたようでした。参加者は50名と、「金剛組の棟梁が案内する四天王寺さん」というスペシャル企画に喜んでいただきました。



四天王寺を背景にした参加者



五重の塔の説明を受ける

地域活性化部会 部会長 星乃勝

な 10月度 月例会 「経営者の心を元気にするマインドヘルス」

10月例会、今回はエコラージュ®というワークショップを通じて内面を見つめました。今回は国税調査官として26年間税務調査で培った洞察力と、二人の息子を成人させた母性と、表現療法を元に考案した参加型研修を“エコラージュ®・ワークショップ”として確立された飯田真弓先生をお迎えして、経営者の心を守るマインドヘルスについてお話いただきました。エコとは環境、コラージュとは貼り絵の事です。人は誰でも様々な課題や責任を背負って生きています。今回は、自己の内面を見つめ心が前向きになる“エコラージュ®・ワークショップ”を体験し心の中の一面を垣間見ることができました。無意識的に画用紙に張り付けたチラシなどの情報はその人の心の一面を映し出しているようです。



童心に帰って作業に夢中！



それぞれの作品を手に先生を囲んで

ビジネス部会担当副代表 中井敏博

な 11月度 月例会 「大阪おみやげP」への期待！」

11月度月例会「大阪おみやげPへの期待！」と題して開催され、会員20名、非会員12名の合計32名が参加されました。企業と行政の共通課題をつなげ、win-winの連携を実現していく実践として「大阪府公民戦略連携デスク」のさまざまな課題、取り組みのひとつとして大阪の地域活性化をめざした「観光客への新しいおみやげづくり～大阪おみやげP」の具体的実例をこの度プロジェクトの1号商品「泉州の酒蔵と老舗菓子メーカーによる～泉州酒粕チョコレート」の商品化に取り組む2社の代表と、大阪府公民戦略連携デスク・大阪おみやげP担当マネージャーにお越しいただき、同プロジェクトへの期待と展望を話し合っていました。

商品開発部会 部会長 中村一三

な 12月度 月例会 「時代は、前に進んだものにはしか見えない！」～大起水産のあゆみ～

12月11日、「月例会&忘年会」を新金岡の大起水産さまで行いました。「まぐろパーク」の見学、大起水産の佐伯会長と日本一明るい経済新聞の竹



巨大なマグロを豪快に解体

原さまの軽快なトークで、大起水産さまの商売にける奥の深いお話をお聞きすることができました。その後、マグロの解体ショーと続き、忘年会に突入いたしました。締め解体したてのマグロ寿司は食べ放題で、満足度の高いものとなりました。

地域活性化部会 部会長 星乃勝



まぐろパーク入口にて

な 地域活性化部会

●会員の森田登代子さんが主宰する「特定非営利活動法人ピースポット・ワンフォー」による、2018年で5回目となる1,000人が踊るフラダンスの祭典を応援する企画『とんぼり ALOHA FESTIVAL』が9月22日23日に開催されました。木村アルミさんとルイボスティの増井さんにブースを出していただきました。これからも「とんぼりリバーウォーク」が賑わう企画や「なにわ名物開発研究会」の会員を応援する企画を進めていきたいと思



真剣に聞き入る参加者

●アメリカ村にある「人生図書館」を10月7日にお訪ねしました。この図書館は“人生を変えた1冊の本”の寄贈と、寄贈に至ったエピソードのカードが添えられ展示されています。当日、このカードを中心に紹介いただきました。来館者はこのカードに衝撃や感激を受けるといいます。それがキッカケに絶望から立ち直る方、癌で死を迎える方が安らかに過ごされた話もお聞きました。今回、数人から本の寄贈の申し入れがあったのが、企画冥利につきる出来事でした。



本格的なフラダンスを満喫

●10月13日、「奈良少年刑務所のホテル化計画と、これからの奈良の観光・まちづくりを学ぶツアー」を開催し、奈良県の竹田博康さまにご案内いただきました。先ず、奈良県庁の屋上から興福寺や東大寺、奈良公園を眺望し、その歴史を学んでから、「奈良少年刑務所」に向かいました。「奈良少年刑務所」は、広大な敷地と煉瓦造りの建物に圧倒されました。建物中央の監視所を中心に放射状に配置されており、中央の監視



田中希代子館長



1階の獄舎から2階を眺めて



2階の獄舎

視台から2階建ての獄舎の全てが監視できるように作られており、異次元を感じる建物でした。次は、奈良公園にある「吉城園(よしきえん)」と知事公舎を、隈研吾氏のプロデュースで宿泊施設にする計画の話もお聞きし、最後は、奈良県庁東側の工事中の巨大バスターミナルを見学。奈良全体の観光が大きく変わるさまを感じることができました。32名の参加者にとっても喜んでいただく企画となりました。

地域活性化部会 部会長 星乃勝



奈良少年刑務所の正門

な ビジネス部会

●9月28日、テーマは地域産業の未来を「福祉」と考える。会場は(株) GIVE&GIFT で案内人は代表取締役 NPO 法人チュラキューブ代表理事中川悠さんです。GIVE & GIFT は、大阪のオフィス街・淀屋橋にあるランチカフェ併設の障がい者福祉作業所です。郊外に数多く点在する福祉施設。でも、郊外で作ったものを郊外で売ろうとするのは難しい。だから、きっと彼らの工賃が低いまなんだ。だったら、都心で作ったものを都心で提供することができれば、工賃を高めることができるんじゃないか。そこで、郊外型モデルから都心型モデルに考え方を転換した障がい者福祉施設×ソーシャルカフェ「GIVE & GIFT cafe」。福祉関係の仕事はきびしい競争マーケットではないけれども相対的に限界利益率が低く労働分配率が高い業界です。少しでもそこで働く障がい者の賃金をあげ、よくなってほしいという想いと挑戦、苦悩。現代社会に生きる課題の一つを考えさせられた部会でした。



お洒落な外観

●10月29日テーマは「自分が幸せ・みんな幸せ・絵文字・筆文字・幸絵文字」、今静かなブームになっている絵文字、筆文字の作家のアトリエを訪ねてお話を聞きました。不幸が起きたとき、他人や環境に原因を求める人がいる。株式会社ゆきえもじの代表取締役社長 花咲幸絵さんも、かつてはその1人でした。しかし、人生で最も辛い時期に生じた考えの変化が、以後の人生を一変させます。その考えとは「まず自分が感謝することで、人に感謝され、人生は豊かになる」ということ。感謝の思いから編み出された「幸絵文字」は、幸せを呼び込み、前向きになれるツールとして、今、企業研修の場でも大きな注目を集めています。今回は心の癒しとビジネスについて考えてみました。とても有意義な時間が共有できました。



花咲幸絵さん

●11月27日ビジネス部会で、なんばスカイオ5階フードホールを訪問しました。南海電気鉄道はなんば駅に直結する複合ビル「なんばスカイオ」をオープン、関西国際空港へのアクセス、隣接する高島屋、ホテル、なんばパークスとの回遊性を高め同地区の集客化を図る。5階フロアでITADAKIMASU FINE FOODは日本食・食文化を活用し、地方活性化・一次産業支援を図り、国内外でのマーケット創出とブランディングを目指している。代表はなにわ名物開発研究会会員の中島大介さん。各分野でのエキスパートをプレーンに様々なネットワーク連携。「大阪から日本を元気に・大阪から世界へ」をテーマに今回は中島さんにその夢と現実を熱く語っていただきました。



個性的な店舗が集まるフードホール

●12月19日、「なにわの繁盛店」の秘密を探るというテーマで関東煮の「きくや」さんにお邪魔しました。待ち時間50分ほど、ようやく店内に入れました。大阪環状線 JR 玉造駅前にある「関東煮 きくや」。あっさりとした優しい味のだしでじっくり煮込んだ具材は、どれもしっかりと味がしみ込んでいて最高の味わい。関東煮なので、具も牛すじやコロもあり。1つ100円台からと、お値段もリーズナブル。常に行列ができていくほどの人気店。部会では以前から繁盛店について学べればと考えていました。入れ替わりの激しい外食業界で何十年も続いていながらも繁盛している。その秘密は何だろうか。とにもかくにも現地へ行きました。寒い日は日本酒と関東煮に限りますね。



ムード漂う店構え



にぎわう店内

ビジネス部会担当副代表 中井敏博

な 広報交流部会

11月度の広報交流部会は、2018年3月にリニューアルされた Panasonic ミュージアムを訪問しました。「パナソニックミュージアム」は、その高い志、そして、それを受け継ぎ数々の製品や技術を生み出してきた、数多の後進の熱き思い、パナソニックの“心”を未来に伝承したいという思いから2018年の春に開設されたミュージアムです。松下幸之助の経営観、人生観に触れられる「松下幸之助歴史館」、パナソニックのものづくりのDNAを探る「ものづくりリズム館」、それに「さくら広場」で構成されています。「松下幸之助歴史館」では生誕から亡くなるまでの94年間のいろいろな松下電器(現 Panasonic)の経営に纏わる出来事を紹介されていました。またその内容を「松下幸之助のことば」を30枚のカードにして置いてあり、それを1枚ずつ集めて最後にケースを買って一つの冊子にして、素敵な経営書になりました。「ものづくりリズム館」は色んな製品の歴史がわかるように展示されていました。特に昭和の高度経済成長期の発展が良くわかる商品展示が楽しめました。総勢12名が参加して予定時間(2時間)いっぱい熱心に見学して非常に内容濃い部会になったと思います。



松下幸之助さんの像の前で



懐かしい家電が並ぶ

広報交流部会 部会長 山口義博

観光チーム

8月29日、観光シンポジウム『関西のインバウンド観光を見つめ直す』～関西は、一つずつ～を開催し、78名にご参加いただきました。基調講演は、関西観光本部の森事務局長から『オール関西でインバウンド誘客を！』と題して、関西の訪日客の実態や課題について語っていただきました。また大阪市商店会総連盟理事長の千田様、有馬温泉の金井様、京都市の西松様にご登壇いただきパネルディスカッションを行いました。

観光チームリーダー 星乃勝

新人会員紹介

「まいど」という言葉がまだまだスツと出でこない商売人新人ツインズ・コーポレーション代表の小野です。サラリーマン時代に、簡単に着られる着物を提案したことから、全く素人の和服の道に嵌りました。しかし、何故かマスメディアに出る機会が多く、「和美換」ブランドで「トレたま」を始め、主要テレビ局、全国紙や業界新聞などに掲載していただきました。レンタルは、スタッフ用、パーティや祭り、お客様の接待、海外出張のお供、レンタルコーナーなどのB to Bに特化し、店頭でのレンタルや販売はしていません。また、普段着の着物で出掛ける場所として昭和レトロを謳う新世界の北側に着目し、なにわ名物の有志の方々と新世界市場を中心に千客万来を目指すプロジェクトを進めています。

小野宏積



小野 宏積氏



普段着の着物で新世界へ

※「新世界地区活性化」チームが発足！

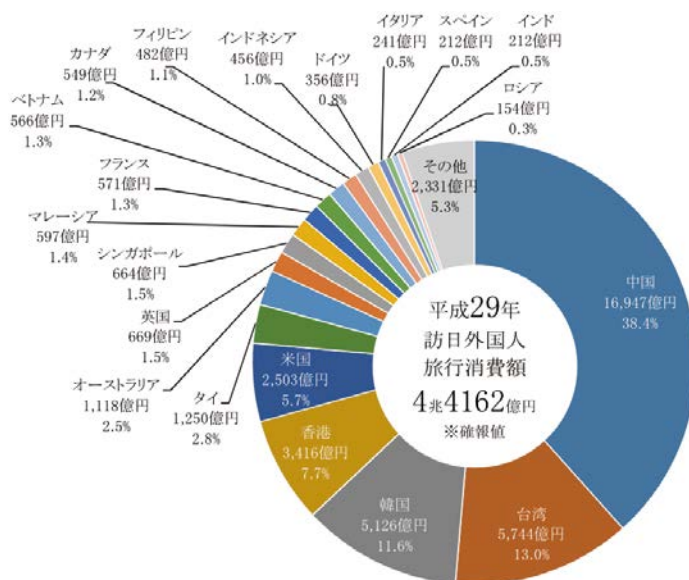
新世界の北側エリアの活性化を目標にフォーラム、セミナー、イベントを開催していきます！

インバウンド観光コラム(4回連載)

観光チームリーダー 星乃勝

<第2回 インバウンド誘致の必要性>

「何故、訪日外国人(インバウンド)を増やす必要があるのや…？」それは日本が人口減少の時代に入ったからです。子供が減って年寄りが増えた…子供が減ったため生産年齢人口が激減です。また消費額も激減します。今、自治体では「定住促進」を進めていますが、これは減る人口の奪い合いに過ぎません。悲しいですがお客さんが減るので、シャッター通り商店街も増えていくのです。この人口減少を補うため「観光による交流人口の増加」に力を入れ始めました。しかし人口減少なので、日本人観光客は増えないため、インバウンド誘致にターゲットを絞ったのです。またインバウンドは消費額が大きく2017年は4兆4,162億円(17.8%増)。38%が中国です。またインバウンドの消費額は、日本人の定住者の8人分も消費するといひ、消費額においても、インバウンドに頼らざるを得なくなっているのです。



大阪の地域資源を活用し、大阪を活性化。

なにわ名物開発研究会とは？

なにわ名物開発研究会は、大阪で頑張る「メーカー」「流通」「サービス」「コンサルタント」「クリエイター」など業種・業態、ついに「業」さえも超えたヒト・モノ・コトのネットワーク組織です。毎月の例会を始めとする多彩な行事で、会員間の交流・関係諸団体との交流を図りながら、大阪の活性化を目指しています。

【正会員】入会金 10,000円・年会費 36,000円 / 【準会員】入会金 5,000円・年会費 18,000円

Mail : info@naniwa-meibutsu.com URL : <http://www.naniwa-meibutsu.com/>

〒542-0074 大阪市中央区千日前2-11-10 いづもやビル4F TEL:06-6643-3150 FAX:06-6643-3140

現在新会員を募集中!!

※詳細は事務局までお問い合わせください。

ええ大人がビジネスも遊びも本気でやっているのが、「なにわ名物開発研究会」の特徳です。